

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【太田小】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>定義、算数的、理科的の定着が不十分である。</p> <p><指導上の課題>基礎学力を定着する時間の確保ができていない。基礎学力向上タイムが有効活用できていない。</p>	<p>⇒</p> <p>学習の様子によっては、前学年の内容をふり返ることも視野に入れる等の学習活動の工夫をする。学習が苦手な児童の学習が定着できるように支援、声かけを通年を通して取り組む。基礎学力向上タイムを効果的に使えるよう内容、学習形態の計画をする。【月に1度】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>考えることや表現することに苦手意識があるのか記述式問題に無解答率が高く見られる。</p> <p><指導上の課題>めあてを意識した振り返りの時間の確保。</p>	<p>⇒</p> <p>思考が単純なもので留まらないよう、「なぜ」「どうして」の問いかけを適宜投げかけることで思考を深める経験を学習の中で積ませる。また、それらを踏まえた振り返りの時間を設ける。【毎時間3分実施】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語においては、自分の考えをまとめることに苦手意識が見られた。どのような書き方をすると中心がとらえやすい文章が書けるのかを知ったり、何を伝えたいのかをまとめる経験を授業の中でも積ませたい。</p> <p>算数においては、除数が小数の計算に課題が見られる。計算の定着に課題が見られるので、学力向上タイム等の活用を進めていく。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語においては、自分の考えを簡潔に表現することに課題が見られる。授業のふり返り等でも、自分が1番大切にしたいことをまず書くように指導を進める必要がある。</p> <p>算数においては、式の立て方に苦手意識が見られる。「多い」「少ない」という言葉を見て「たし算」「ひき算」としている可能性もあるので、式の意味や考え方を説明し、伝え合う活動の充実が必要である。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	教職員での共通理解をし、取り組んでいるが定着につながるにはまだ時間が必要である。	変更なし
思考・判断・表現	C	教職員での共通理解をし、取り組んでいるが定着につながるにはまだ時間が必要である。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)